

# ネットワーク情報学部

## 学 修 ガ イ ド ブ ッ ク

# 2018

SCHOOL of NETWORK and INFORMATION

# 専修大学

専修大学21世紀ビジョン  
「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

社会知性(Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力。

専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、1880年(明治13年)、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬 永胤、田尻 稻次郎、目賀田 種太郎、駒井 重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するための本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直し、「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」を21世紀のビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

ネットワーク情報学部  
学修ガイドブック

平成30年度

2018

SCHOOL OF NETWORK AND INFORMATION

専修大学

# ネットワーク情報学部 学修ガイドブック 2018

## 学位授与の方針

ネットワーク情報学部は、社会における情報の収集、処理、発信等の過程に関する包括的な研究教育を通じて、創造的かつ学際的な知識を有する人材を養成することを目的としています。次に掲げる目標を達成した学生に学士（情報学）の学位を授与します。

- (1) 情報学における、情報とそれを扱う原理・機構・人間、社会への応用について俯瞰的に理解し説明できる。(知識・理解)
- (2) 論理的・数理的思考能力、数量的スキル、情報通信技術、情報倫理、創造的思考能力を身に付け、情報を扱う際に活用できる。(技能・表現)
- (3) 修得した知識・技能を活用することにより、社会における様々な問題を発見・分析し、解決案を設計し、それを表現して説明できる。(思考・判断、技能・表現)
- (4) 問題解決の過程で、他者とコミュニケーションをとりながらチームで協働し、活動を推進することができる。(関心・意欲・態度、技能・表現)
- (5) 社会における問題を発見・解決する際に、人間・社会・自然・健康との関係、多様な文化・価値観、新たな情報技術、関連する学問等を考慮し、それに関する知識・技能を自ら学習できる。(知識・理解、関心・意欲・態度)

上記(1)～(5)の目標を達成するように、カリキュラムポリシーを基に編成された教育課程が、本ガイドブックに詳細に記載されています。

## Contents [目次]

|                |    |
|----------------|----|
| 先輩からのメッセージ     | 01 |
| 先輩からのメッセージ(続き) | 63 |

### 大学での学びを理解する

|             |    |
|-------------|----|
| 大学の授業とは     | 03 |
| 授業の点数はこうつく  | 05 |
| 4年間の学びのステップ | 07 |
| 自分の時間割表を作る  | 09 |
| 授業時間外の学修    | 11 |

### 全学共通の学びについて知る

|                  |    |
|------------------|----|
| 開設される科目の構成と学士課程  | 13 |
| 転換・導入教育課程        | 14 |
| 人文科学基礎関連科目       | 15 |
| 社会科学基礎関連科目       | 16 |
| 自然科学系科目          | 17 |
| 融合領域科目           | 18 |
| 外国語系科目(英語)       | 19 |
| 外国語系科目(英語以外の外国語) | 21 |
| 保健体育系科目          | 22 |

### 学部専門の学びについて知る

|              |    |
|--------------|----|
| 専門科目の4年間での学び | 23 |
|              |    |

入学おめでとう！ ネットワーク情報学部生の皆さんに、伝えたいこと

# 先輩からのメッセージ

## 「得意」を見つける1年次

私がネットワーク情報学部を選んだ理由は、ただ「パソコンが好き」という、それだけのことでした。入学直後は、自分は何が「得意」で、2年次にどのプログラムを選ぼうか、全く考えられていない状態でした。

それでも、1年次のプログラミング演習で、初体験であったプログラミングが「得意」なのかもしれない、と気づくことができ、2年次に自信を持ってネットワークシステムプログラムを選択できました。

1年次の必修科目では、幅広い分野の基礎知識を学習することができます。入学したばかりの皆さんもまずは色々な分野に触れて、皆さん自身の「得意」を見つけてみてください。

(平成27年入学)

## 4年間でたくさんの初めてに 出会って成長を！

ネットワーク情報学部に入ったとき、目標もない夢もないやる気もない、そんな私でした。1年次の時はぼーっと過ごしていたのですが、2年次に上がる時このままではいけないと思い、高校情報の教員免許の取得を目指し始め、応用演習も能動的に学び、学外活動として展示会の実行委員を始めました。今ではそれらの経験が今の私を作っていると言っていいぐらいの貴重な経験だったと思います。

ネットワーク情報学部は「やりたい!」と思ったことはほとんどなんでもできる学部。でもやりたいと思わなければただ過ごすだけです。4年間の学びのなかでたくさんの初めてに出会ってたくさん成長してください。

(平成25年卒業)

## 大学で得るものは、 必ず一生モノになる

大学の4年間は教養や学問を深めたり、色々な方と交流をしたりと自らやりたいことが存分にできるいい機会です。今はそういうものが無い人でも、大学生活を通じて何かしらやりたいことが見つかるかもしれません。苦しい時や辛い時もありますが、それらから得るものは必ず一生モノになると信じて。

(平成22年卒業)

## 自分を知ること やりたいことを知る

大学生活では多くのことを学ぶチャンスがあります。この学部では特に顕著で皆さんは戸惑うこともあるでしょう。そういったときに一度冷静になり、自分は何がしたいのか、何が得意なのかを考えて

# 大学の授業とは

大学では、様々な学問分野の授業が、色々な大きさの教室で行われています。  
高等学校までの授業の様子とはだいぶ違うと感じられるでしょう。  
ここでは、どのように授業が進められているのか、例をあげて紹介しましょう。

## 大きな教室での授業

300人教室

全学部生が履修できる科目は大きな教室で行われることがあります。高校までと違って学部や学年の異なる学生と一緒に受講することもあります。教員はその科目を深く研究していますが、教え方は様々です。講義の構成を考えながらノートを取ったり、板書されていない話でもポイントをつかんでメモしたり、紹介された本や不明な用語を後で調べたり、自分から学ぶ姿勢が大切です(ノートだけ他人から借りても1/10も理解できま

せん)。板書だけ写してもノートとは言えないのです。高校までと違って色々な考え方の紹介がありますから、理解するには話の構成や論点のレベルを見極めることも大切です。どの科目も、あなたにとってその学問に接する最初で最後の機会かも知れません。黒板が見やすい前の方に座って積極的に授業に参加しましょう。毎回何かしら未知の発見ができるでしょう。

## 小さな教室で行われる数理系の授業

100人教室

線形代数や基礎解析などの数理系の授業は、基本的には高校の数学の授業と同じように進められます。授業では先生が、大切な用語の定義やその使い方などを、黒板に書きながら説明します。それを聞き逃し写し忘れると、その先を理解するのが難しくなるので、授業中はしっかりと集中することが大切です。さらに毎回出される課題を十分時間をかけて自分の力で解くことを心が

けましょう。わからないところはそのままにせず、先生に質問したり友達と相談することが必要ですが、友達の答えを鵜呑みにするようなことは避けましょう。自分で理解していないと授業内テストなどで良い点が取れず、翌年も履修することになってしまいます。数理系の勉強は山登りのように、一步一步確実に進むことを習慣にしましょう。

## 演習教室で行われるリテラシー演習

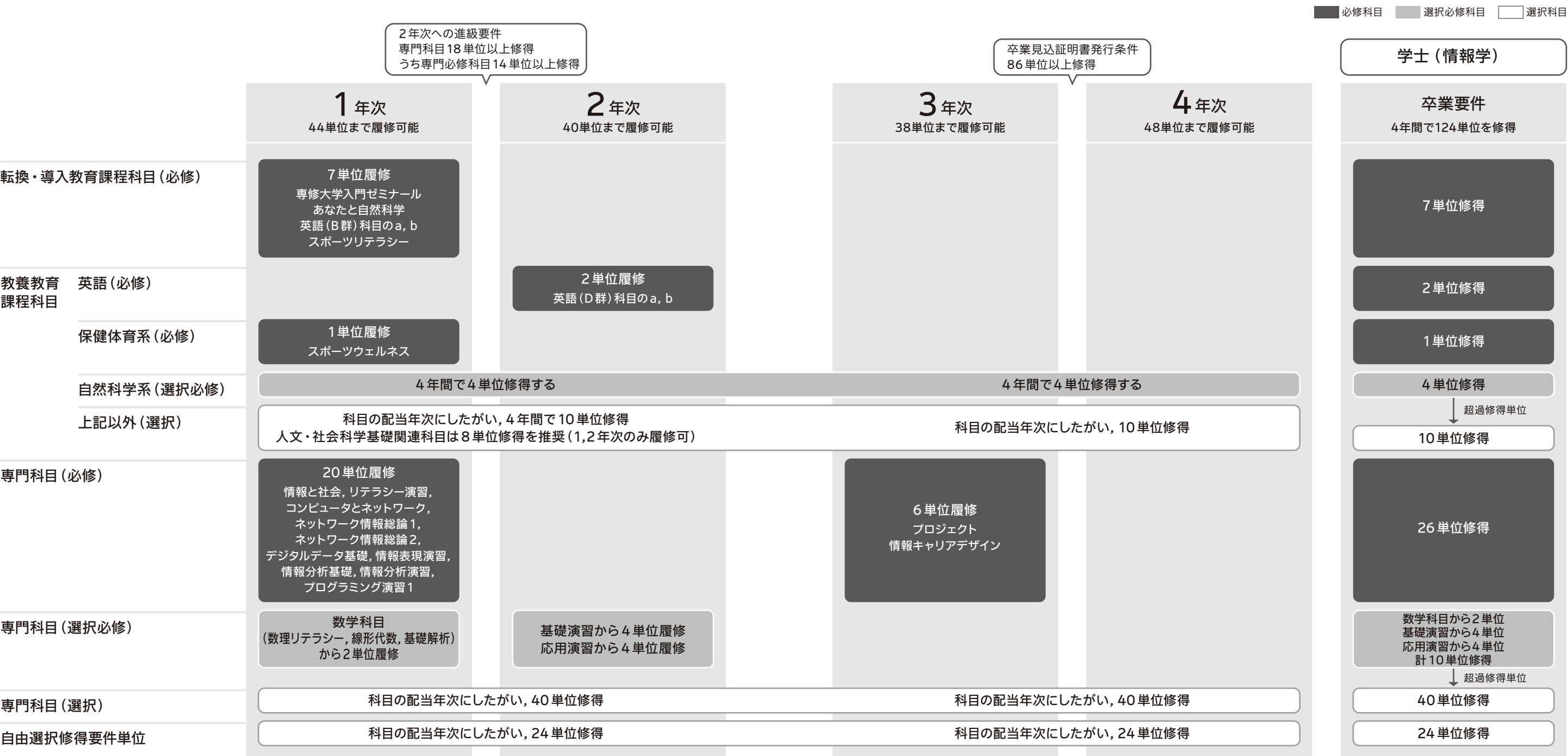
30人教室



# 4年間の学びのステップ

- 皆さんは様々な科目の区分から、卒業要件を満たすように、4年間かけて単位を修得する必要があります。  
科目名とその区分の一覧は、72～73ページに掲載しています。
- 科目を履修し、60点以上の評価を得られたとき、その科目の単位を修得することができます。  
科目の単位数は開講期間、科目の性質によって決まっています。
- 「必修科目」は、卒業するためには必ず修得しなければならない科目です。  
一つでも未修得の必修科目があると卒業できません。
- 「選択必修科目」は、ある定められた科目の集まり（選択必修科目群）の中から指定された単位数以上を  
修得しなければならない科目です。  
選択必修科目群は複数あり、各科目群から必要単位数以上を修得しなければなりません。

- 転換・導入教育課程科目から7単位、教養科目から17単位、専門科目から76単位修得しなければなりません、  
卒業要件単位124単位に達するためには、さらに24単位修得する必要があります。  
その24単位分を、専修大学では自由選択修得要件単位と呼んでいます。  
自由選択修得要件単位に含めることができる科目は、57ページを参照してください。
- 配当年次。すべての科目には、履修可能となる年次が指定されます。  
例えば、1年次配当の科目は1年次にしか履修することができません。  
複数年次配当の科目、例えば、2～4年次配当の科目は、2・3・4年次のいずれにおいても履修することができます。  
必修科目の単位が修得できない場合は、配当年次に関わらず再履修しなければなりません。



# 自分の時間割表を作る

大学で最も重要なことは、4年間の学びを意識しながら、それぞれの学年の最初に、どの科目を履修するか決める（自分の時間割表を作る）ことです。専修大学は、前期開講授業、後期開講授業、そして前期・後期と連続して行われる通年授業に大きく分

かれます。前期、後期それぞれの時間割表を作り、Web履修登録システムで登録し、履修が認められるまで、自分の責任で行わなければなりません。

## 必修科目のチェック

① 当該学年で履修する必修科目を履修しなければなりません。必修科目は、いくつかのクラスで実施されている場合、学籍番号で割り当てが決まっていることがあります。自分が履修するクラスを時間割で探しましょう（過去に修得できなかった必修科目は再履修

しなければなりません。どのクラスで受講すべきか、4月のガイダンスで指示されます）。必修科目の開講曜日時限は、あらかじめWeb履修システムで確認することができますので、必ず確認してください。

## 履修可能単位数のチェック

② 当該学年で、何単位履修することができるのか理解しなければなりません。7～8ページに記載された各学年の履修上限単位数から、各学年で履修しなければならない、必修科目及び選択必修科目の単位数を引いた結果が、

あなたがさらに履修できる年間単位数となります。（履修可能な単位数をすべて履修しなければならないということではありません。資格課程科目および海外語学短期研修は、年間履修上限単位数に含まれません）

## どの学年で学ぶか考える

③ 学修すべき学年が幅広く指定されている選択必修科目及び選択科目をどの学年で履修すべきか考えなければなりません。一般に、選択必修科目は低学年で履修した方がよいでしょう。語学などはたとえ選択科目で

あっても、個人の学修目的に応じて低学年で履修する場合もあるでしょう。資格課程科目を履修して資格を得たい場合は、そちらのガイダンスに参加して、どの学年で学修していくべきか考えましょう。

## シラバスと時間割の確認

④ 3で考えた科目に関して、実際に、シラバスを確認して、自分の学修すべき内容なのか判断していきます

































































